

知事のひとこと vol.51



奈良県知事

荒井 正吾

聖徳太子が、第33代推古天皇（在位592～628年）の摂政でおられた時、遣隋使が派遣されました。第1回目が600年、第2回目が607年です。今年が成立1301年目にあたる日本書紀には、第1回遣隋使のことは記されておらず、第2回目についても出発のみが記されています。また、遣隋使と大国隋とのやりとりの内容は、隋書に記載されています。

中国大陸を統一した隋とその東の島国倭との出会いは、大変緊張したものであったに違いありません。しかし、どのような関係であれ、外交上のお付き合いが始まり、小野妹子が答礼使裴世清^{はいせいせい}をともなって帰国しました。隋書では、倭王の姓名がアメタリシヒコという男性名になっていることから、摂政である聖徳太子が遣隋使を主導したものと考えられています。

遣隋使の派遣とともに、冠位十二階（603年）、憲法十七条（604年）の制定など、後の律令制につながる改革が実施されました。推古天皇、摂政聖徳太子、それを補佐する蘇我馬子の体制のもとで、新しい国家形成の動きが始まったこの時代は、このくにととって大事な時代であったに違いないと思われます。

毎月11日は人権を確かめあう日

人権コーナー



ひかりちゃん てんいち先生

ふるさと

東京で暮らしている息子は、幼少期を過ごした奈良にいつか戻りたいと言っていました。奈良は魅力的な所で、私自身も奈良の仏像に魅せられて移住した一人です。海外からも、奈良の自然と静寂に心のやすらぎを求めて何度も訪れる人がいます。奈良の魅力はそれほどまでに奥深く、多くの人を惹きつけています。

ですが、息子が抱く奈良のイメージは、子ども時代の思い出が大部分でしょう。保育園の同級生や先生と手をつないで散歩した田んぼのあぜ道、ランドセルを背に友だちと一緒に走って帰った通学路、なじみの理容店主の笑顔など、地域で安心して過ごした風景が息子にとっての奈良なのです。

今日もニュースで新型コロナウイルスの感染者情報と共に都会の映像が流れます。コロナ禍の先行きが

見通しにくい状況下で、帰省やUターンもままならず、どれほど多くの人が不安を抱えながら懸命に生きていることでしょうか。

しかし、どんな厳しい日常にあっても、せめて一瞬でも懐かしいふるさとに思いをはせて、ほっとできる時間があればと、心から願う毎日です。

今月の標語&ポスター

君のゆめ
いじめなんかで
こわせない香芝市立五位堂小学校 5年
いまい ゆい か
今井 結衣花さん葛城市立新庄中学校 3年
よしむら ひとし
吉村 仁志さん

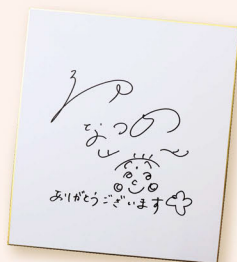
※学校名・学年・氏名は発表時のものです。

クイズ&プレゼント

正解者の中から抽選で

三戸なつめさんの
サイン色紙を
3名にプレゼント!

締め切りは2月28日(消印有効)



○にあてはまる数字を答えてください。

Q 2021年は聖徳太子没後何年?

A ○○○○年

ヒントは
2ページ

12月号の答えは“5”でした。応募総数488件。

ハガキにクイズの答えと、住所、氏名、年齢、電話番号、「県民だより奈良」の感想(良かったコーナー・取り上げてほしい話題・改善点など)を記入して、〒630-8501(住所記入不要)奈良県広報広聴課へ。
 ④www.pref.nara.jp/30222.htmからも2/1以降応募できます。
 ※個人情報、プレゼントの発送以外には使用いたしません。